

市は、広報いわみざわやホームページ、Facebook、Twitter、メールサービスなど、さまざまな媒体を使って情報を発信しています。これらは目に訴えかけるものですが、耳に訴えかける媒体でも情報を発信しています。
今月号は、耳で味わうおいしい情報と、それに携わる人達にスポットを当てました。
問合せ先 市秘書課広報係

FM 市内で唯一の

この写真、どこか分かりますか？
中央バスターミナルを利
用する方なら見覚えがあるか
もしれません。

岩見沢市と近隣市町村一部
をエリアとしたFMラジオ放送
局であるFMはまなすジャパン
(以下、FMはまなす)のスタジ
オです。FMはまなすは、平成
28年に開局20周年を迎えました。
パーソナリティが、地域に密着
したホットな話題や生活に役立つ
お得な情報などを伝えていま
す。
市民の皆さんが出演する番組や、市
内で行われるイベントなどの行政
情報、防災・防犯といった緊急情報
も放送しています。

FMはまなすをもっと詳しく知
るため、パーソナリティの松井宙夢
さんに、スタジオで話を聞か
しました。



開局を伝えた、広報いわみざわ
1996年(平成8年)3月号



情報と夢への架け橋

株コミュニティエフエムはまなす
(有明町南1 コミュニティプラザ内)
愛称：FMはまなすジャパン
☎ 25局 8074 FAX 25局 8079
Eメール hamanasu@fm761.jp



耳で味わう おいしい情報



はまなすお君

FMはまなすって？

自宅にあるラジオや携帯ラジオ、カーラジオなど、お持ちのラジオの周波数を76・1メガヘルツに合わせると、市内全域で聴くことができます

市内のいろいろなイベントや行事を取材して、インタビューを交え、地域密着のニュースを伝えていきます。他にも番組はいろいろあります。市民の方にもボランティアでやっています。これはコミュニティ放送ならではの番組だと思います。自分の趣味・趣向に合わせた番組をやってもらっています。

そんな中で、私のお勧めは、金なま!!ナイト倶楽部^{くらぶ}です。毎週、さまざまなジャンルで活躍している方に登場してもらい、これからの目標や仕事の内容などを聞く番組です。市の重要施策なども詳しく紹介しています。金曜日の午後5時40分から、1時間20分の番組なので、結構長いですね。ゲストに焦点を当てて40分くらい話を聞くというものです



ひろも
松井 宙夢 さん

インターネットでも

生放送の番組をUSTREAM(ユーザーストリーム)というサービスを利用して配信しています。FMはまなすのホームページに動画再生ボタンがありますので、そこから見ることもできます。配信

している番組は、FMはまなすの番組表をチェックしてください



リスナープレゼント

曲のリクエストや取材情報、ご意見・ご要望をいただいた方の中から抽選でプレゼントしています。スタジオの前の応募用紙を直接持ってきていただくか、FAX、メールで応募してください

今は、開局20周年という事で、2種類のプレゼントがあって、どちらも6月23日(金)必着、6月24日(土)の生放送の中で、当選者を発表します。詳しくは番組表を見てください

こんな出来事も

いろんなジャンルの方にゲストで来ていただいているので、面白エピソードもありますよ。生放送の中で、楽器の演奏があったり、試食があったり、英会話教室の先生が来て、片言の日本語だったんですが、こちらも片言になったりと、本当に面白い



ですね。皆さんがびっくりする、笑える、知らなかったなど、興味津々のトークをお送りしています

生活に密着した情報も

スクラムいわみざわ^わという番組では、広報いわみざわの情報を中心に、市の重要なお知らせや市民の皆さんが必要としている情報、緊急なお知らせ、週末の当番医などを伝えていきます。イベント情報は、岩見沢市に限らず、近郊のまちの情報も伝えていきます

熊本で学んだこと

コミュニティ放送局って全国に200以上あるんですね。災害発生時の情報伝達という大事な役割があります。いろいろなメディアがありますけど、「災害時にはラジオ」ということを知ってもらうことも大きなことかなと思っています

昨年11月に、熊本市と隣の益城町を視察してきました。スタジオはCDが散乱したり、機材が倒れたりといった状態でしたが、簡易的な機

材で、安否の確認や被害の状況を伝えていたそうです。臨時災害FM放送というのもあり、新たに簡易的な放送局を作って放送をされていて、東日本震災の時もあったそうです

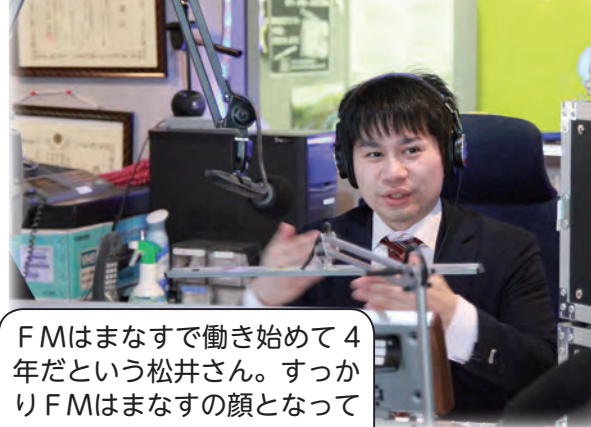
私たちも、いざという時の準備は、日頃からしています。被災した方が、どういう情報を求めているのか、とても勉強になりました。いただいたメッセージを放送したら、別な方からメッセージが来て、それを放送したら解決したということもあったそうです。災害発生時に、ラジオで情報を入手できるのは、被災した方たちにとって、心の支えになり、安心感にもつながると思います

FMはまなすの役割

あとは、コミュニティセッションツールとしての役割ですね。身近な生活情報、イベント情報、最近だと、卒業式や入学式といった、いろんな節目に立ち合い、取材をして、声を聴いて、伝えるのも役割だと思います

紙面ではできない、天気や緊急的なニュース、事件や事故などのタイムリーな情報を伝えることができるというのは強みだと思います

これからはもっと、ほっとする話やホットな話題など、明るい岩見沢を取り上げていきたいですね。いろんな表情を声でお送りできたらいいなと思っています



FMはまなすで働き始めて4年だという松井さん。すっかりFMはまなすの顔となっているのではないのでしょうか。私は、松井さんのように話が得意ではないので、話上手な方にすごく憧れます



市民の皆さんとつくる番組

松井さんの話で触れられていた、ボランティアで市民制作番組に携わっている方にも話を聞きました。

長寿番組

吉田さん 私たちが放送しているのは、市民制作番組の「ステージの合間に」という番組で、月一回の生放送です

宮原さん 市民制作番組は、週替わりでいろんな人たちが1時間間の番組を持っているんです。私たちは、毎月第三土曜日に放送していて、開局当時からの番組ですね

番組のきっかけ

吉田さん FMはまなすが立ち上がったときに、文化的



吉田 多佳子さん

な番組もという話がありました。昔、演劇鑑賞会が岩見沢にあって、東京から有名な劇団の方々が来て、演劇をするというのが2カ月に一回くらいありました。その方達のお話しをする番組ということでスタートしたんです。途中から、市民の方にも出演してもらうことで、出演した方のお友達が聴いてくれるんじゃないかってことで、より多くのゲストの方を呼んで、FMはまなすを広げようという事になったんです。それは、災害が発生したときにラジオを活用してもらうには、普段から聴いてもらうことが必要なことだと思います

宮原さん コミュニティFM自体が、阪神大震災をきっかけに、地域のラジオ局として全国に広がったんです。FMはまなすの局員が駆けつけられないときに、ボランティアが駆けつけて、放送しなければってところからですね

ゲストの魅力

宮原さん 今は月に一度の放送なんです。開局当時は、毎週水曜日に放送をしていました。演劇を紹介する合間に、市民の方をゲストに呼んで、例えば、陶芸をしている人、バンド活動をしている人、珍しいのでは、盆栽の活動をしている人とかに来てもらいました。吉田さんが直接まちで出会った人に、「ラジオに生まれませんか？」って声をかけていました

吉田さん どこに行っても、「私はこういう活動をしています。FMはまなすを知っていますか？私の番組に出ていただけませんか？あなたの活躍をお聞きしたいんです」という感じで聞いていました

宮原さん 毎回ゲストを呼んで、活動内容や人となりを吉田さんが聞かなくてというのが、番組のコンセプト。それを劇団の話の合間にやっていったというものです。今も毎月ゲストを呼んでいますね。もう20年もやっている番組なので、ゲストを探すのが大変になってきているんです。時間も必要ですが、体力も必要なんです

吉田さん 番組を放送するにあたっては、ゲストの方の一番すてきな部分をお届けするのが目的だと思います。それが伝われば、この番組は大成功ですよ



宮原 祐輔さん

もっと広めたい

吉田さん 番組を始めて20年になりますが、何でもそうですけど、時代は巡り巡って次の世代に送り届けなきゃならないと思うんです。長くやっていけばいいってものじゃないような気がするんです。もちろん、ベテランがいてもいいのですが、それを追ってくる世代の方たちが、随時、誕生してこそ、発展につながるんじゃないかなと思います。それはたぶん、FMはまなすも課題でしょうし、私たちの市民制作番組も、若い人たちにどんどん参加してもらって、番組を発展させていく必要があると思います

宮原さん 今はインターネットやFacebook、Twitterなどで、情報を発信している人ってたくさんいると思うんです。でも、ラジオを通して、声が届けるということの魅力をもっと広めたいですね。すごく楽しい活動なんです



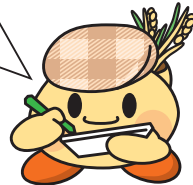
広報いわみざわと FMはまなすの連携

広報いわみざわと連動した番組を放送します。担当部署の職員をゲストに招き、深く掘り下げていきます。FMはまなすを聴けば、広報いわみざわの内容をさらに詳しく知ることができるかもしれませんよ。番組の日時は、広報いわみざわでお知らせする予定です。



FMはまなすは、岩見沢市内で唯一の地域密着型のコミュニティFM放送局です。あなたの知りたい岩見沢の今を伝える、FMはまなすをぜひお聴きください！

開局当時からのコンビだというお二人。インタビューでも息がピッタリでした。当時、宮原さんは北海道教育大学岩見沢校の学生だったそうです。今は、幌加内町で高校の教員をしており、放送のためにスタジオに駆けつけてくれるそうです。長い間、ボランティアで番組に携わってくれているお二人には、本当に頭が下がります。



おなじみの癒されるまちの音

(有)IHK 岩見沢放声協会 (4西4)
☎ 25局 0001 FAX 25局 0010



🎧 まちなかに響くおなじみの声

ラジオではありませんが、まちなかを歩いていると、放送が流れているのに気が付きませんか？市民の皆さんには、なじみ深いあの声です。

ラジオとは違う、街頭有線放送なんです。電柱などに設置しているスピーカーから流れているもので、復して耳に残し、記憶に残る情報源として発信されています。コマースや生活情報、市からの緊急情報も放送しています。

街頭有線放送を実施しているIHK岩見沢放声協会の代表取締役の前川英雄さん、専務取締役の前川英介さんに話を聞きました。

電柱7本からの始まり

英雄さん 昭和24年、ラジオの修理販売業を行っていた私の父、三郎が、北海道電力の電柱7本を借り上げて、街頭放送を始めたものです。当時では思いもつかないコミュニティ放送の先駆けだったと



前川 英雄さん

思います。昭和30年代から、街頭放送の他に、戸別に配信する屋内向け放送を開始し、2チャンネルでの放送となりました。住宅や店舗、会社



当時の屋内用スピーカー

報、NHKラジオ第一放送の番組、ニュースの中継、市内行事などを録音取材で放送する二元放送を実施しました。市議会の一般質問の録音中継も行っていました。屋内放送の契約戸数は、2千600件を数えましたが、まちがほとんど大きくなっていき、借り上げる電柱やスタッフの数などに限界を感じ、昭和60年に屋内放送部門を停止しました

どの緊急放送です

こんな出来事も

英雄さん 昔は、災害などの緊急情報が多かったですね。特に火事

英介さん 二条大火って聞いたことありますか？録音機を担いで現場に行つて生中継をしたと聞いています。

あとは、「病院でRHマイナスの血液が足りなくて困っています」という内容の放送をしたら、それを銭湯で聴いていた人が駆けつけて、事なきを得たというのもあったそうです

元気で癒される音づくり

英雄さん 駅前通りもそうですが、電柱の地下埋設が進んでいます。経営環境の厳しい中、設備改善も大きな課題となっていて、全て対応することはできない状況ですが、できるだけ今と変わりがないように、通信線の地下埋設を行つて、新しい環境に見合った設備と音づくりに努めていきたいと思っています

英介さん 昔の賑わいと比べると、中心市街地と言えなくなるような状況で、中心市街地としての将来的な改善計画が望まれています。商業地の一体化として考えたとき、大和タウンプラザ地域との互換性をもった放送線の基地化と



前川 英介さん

いうのも検討しています。歩いていけば自然と耳にする放送です。創業から、広告を通じてご理解とご支援を頂いている皆さんのためにも、効果的に伝え、市民が元気で癒される音づくり”としてこれからも頑張ります



長い歴史を持ち、老舗であるIHK。子どもの頃から聴いていたという方も多いのではないのでしょうか。お二人の話を聴いていると、本当にまちなかが好きで、まちなかを元気にしたいという熱意が伝わってきます



稼働中の機材

音は、何かをしながらでも耳に入るものです。車を運転しながらラジオを聴く、外で作業をしながらポケットラジオを聴くなど、それだけに集中しなくても情報として入手できるものではないでしょうか。そして、自然と耳に入ってくるものでもありません。何気なく聞いていても、繰り返しされることで記憶にも残ります。

情報発信と言っても、さまざまなものがあります。新聞やテレビ、ラジオ、インターネットなど、多種多様です。市は、そういった情報発信を単体ではなく、連携を取り、さらに効果的な発信をしていきます。

皆さんも、目で、耳で、さまざまな情報発信の媒体を利用して、いち早く正確に、より多くの情報を収集し、生活に役立てましょう。

耳からの情報収集を少し意識して、文字通り、耳を傾けてみませんか？